様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０４４７３

研究課題名（和文）動的オーセンティシティ発現構造にもとづく文化的景観の計画体系化国際共同研究

研究課題名（英文）International Collaborative Study on Systematizing the Planning of Cultural Landscapes based on Dynamic Authenticity Expression

研究代表者
神吉　紀世子（KANKI, Kiyoko）

京都大学・工学研究科・教授

研究者番号：７０２４３０６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,600,000円

研究成果の概要（和文）：文化的景観の十分に発見されていない動的オーセンティシティを実地に読み取り、得られる多層の価値を計画に実態化する「計画体系」の完成を目的とし、この取組みへのフィールドスクール方式の有用性を検証した。主たる実地研究に国際：ドイツ・インドネシア、国内：竹野浜、伏見区を対象に実施し、異なるスケール連動や、無形遺産が重要な真正性と読み取られ計画体系の完成、フィールドスクールの有用性が確認された。未発見の動的オーセンティシティ研究は、国内：京都市中書島・四万十川・明延鉱山他、国際：南京市、ブルックリン、バンコク他を取り上げ、跡地利用、一般市街地的地区、現代的都市変動等変化の真正性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
国際・国内の共同研究および実地調査は、従来の保全が局所的で真正性の認識も限定的なため、動的オーセンティシティの発見と価値体系の捉えなおし、進化的保全にみあう計画の作成に取り組んでいる事例地で、本研究はその取り組みに実践的に参画し、計画策定に直接貢献したもので、計画体系の完成はこの実践性をもって確認している。学術的な意義としては特に、動的オーセンティシティの発見内容に現代性、庶民性、跡地利用のような現代都市・地域には必ず登場する対象への評価が得られたことに新規性がある。本研究の延長に海外事例地２件のUNESCO Chairが選ばれたこともその証左と見なされる。

研究成果の概要（英文）：This research aimed at the completion of a "planning system" that interprets the dynamic authenticity of cultural landscapes, which has not been sufficiently discovered, and realizes the obtained multi-layered value systems in the planning. The usefulness of the field school method in this effort was also verified. Internationally, Germany & Indonesia, domestically, Takenohama, Fushimi-ku, etc. main field research was conducted, and the effectiveness of the field school, completions of the planning systems were confirmed with reading the authenticity of different scale interlocking, intangible heritage etc. Undiscovered dynamic authenticity research covers domestically Kyoto City Chushojima, Shimanto River, Akenobe Mine, etc., internationally Nanjing City, Brooklyn, Bangkok, etc. The authenticity findings in some of urban transformations, folksy town, restructured industrial ruins, ongoing urbanism were discovered.

研究分野：都市・農村計画

キーワード：動的オーセンティシティ　文化的景観　計画体系　国際共同研究　フィールドスクール　インドネシア　ドイツ・ルール地方

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

文化的景観（cultural landscape）は 20 世紀初頭ごろには地理学、その後景観生態学等において用いられた概念であるが、1992 年に UNESCO 世界遺産の文化遺産の１カテゴリーとして採用され、現在では遺産の概念の１つとして頻出している。これに応じ 2000 年代半ば頃より、文化遺産としての研究が増加したが、文化的景観の調査・把握・解釈と理解、評価のあり方、保全の具体策にわたって系統だった理論化はまだ発端にあった。この中で、研究代表者らは日本建築学会での農山漁村文化景観小委員会の活動として「未来の景を育てる挑戦―地域づくりと文化的景観の保全」（日本建築学会編 技報堂 2011）「Borobudur as Cultural Landscape」（京都大学学術出版会 2015　図 1）を出版し、多層の価値体系（Value System）、文化的景観に不可欠な「動的オーセンティシティ（Dynamic Authenticity）」という真正性概念の提唱、住民の自律的活動による保全の実例を詳解してきた。代表者らは、景観保全とはある姿を固定的に維持するのではなく、その地域の特徴や履歴を受け継ぐ方向で進化することと、地理学依頼の科学的蓄積も踏まえて定位し、「動的オーセンティシティ」を提唱し、規準によって構成要素ごとのかたちを律する対策を超えて、変化をどのように評価するかという「価値」判断をマネージメントの対象とすることを提唱し、変化を前提とする保全を、「進化的保全（Evolutive Conservation）」と定義した。地域には多様な価値が内包され各々は重複しつつ社会・文化的特徴と物理環境的特徴が連動する関係性として成立し、それらが総合した姿が文化的景観となる。右図は文化的景観の理解・評価・将来方向を統合的に捉えるスキームで、このスキームを用い、文化的景観の理解・評価・将来方向立案、さらに、案を実態化する行動の設計までを含める一連のワークを保全の計画体系を、フィールドスクールを開催しながら、実践的に確認することを目指した。

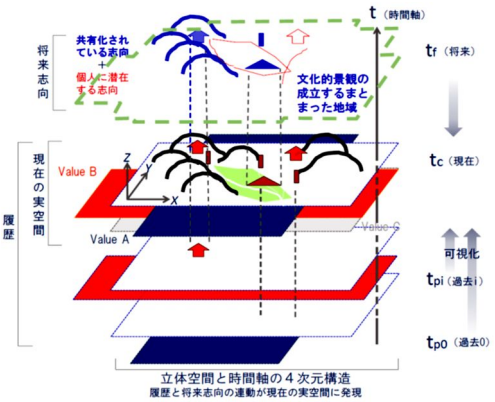


図１　多層の価値体系による文化的景観を捉えるスキーム

## ２．研究の目的

以上から、本研究の目的は、文化的景観がその地域がもつ特徴や履歴を受け継ぐ方向で進化することを想定した存在であることを踏まえ、「動的オーセンティシティ」に該当するが従来十分に発見されていない真正性を実地に読み取り、読み取られる多層の価値体系を保全指針に実態化する、文化的景観の「計画体系」を実践的適用検証をもって完成すること、同時に、計画体系におけるフィールドスクール方式の有用性を検証することを目的とした。

## ３．研究の方法

文化的景観の計画体系の完成と有用性評価のために研究組織として行う調査・議論の活動は、(1)フィールドスクールを通じた継続的な各国事例に関する研究、(2)これまで十分に議論されず認識されていない動的オーセンティシティの発見（とくに、現代的、一般市街地・集落的、等）のための地域調査、の２つに、大別される。 (1)(2)の主なものは次のとおりである。

(1)フィールドスクールによる各国事例研究

（国際 1）ドイツ　ルール工業地域　（小浦担当）

（国際 2）インドネシア　バリ・ジャカルタ・ジョグジャカルタとその周辺　（神吉担当）

（国内 1）兵庫県竹野浜地区　（工藤担当）

（国内 2）京都市伏見区・大岩街道周辺地域（国際１と一部連携、伏見区について神吉担当）

(2) 事例地域の調査－動的オーセンティシティを構成する未発見の価値体系の顕在化

・国内：京都市伏見区中書島、高知県四万十川、兵庫県養父町明延鉱山、静岡県御前崎、京都市西陣、桂坂、京都府京丹波町、紀伊山地熊野古道　他

・国際：中国南京市歴史的住宅地区、米国・ニューヨーク・ブルックリン、タイ・バンコク他

さらに、得られた成果を客観的に議論するために、できるだけ国際・国内の研究集会等で講演発表を行い、繰り返しフィードバックを得た。

## ４．研究成果

(1)フィールドスクールによる各国事例研究

（国際 1）ドイツ　ルール工業地域

▪産業遺産のある文化的景観における地域価値の進化的保全

＊工業系土地利用の再編と場所性

ドイツ・ルール地域は、20 世紀後半の脱工業化による炭鉱廃坑と鉄鋼業の衰退で急激な人口減少が始まり、都市の縮退を経験してきた。社会経済の再生だけではなく、都市のエコシステムの回復、暮らしや文化と関わる統合的な対応を経て、21 世紀に入り持続可能な都市再編へと都

市域のあり方の模索を続けている。その模索のひとつが、ドルトムント工科大が中心となり 2015 年に始めた国際会議“Transforming City Region”であり、企画段階から参加し、その論点のひとつである持続可能な開発による地域再生（土地利用の変化）における場所の価値の持続について、文化的景観の観点から本研究で継承発展させてきた。

2016 年ドルトムント工科大で「Open Space workshop」を行い、都市空間の再編におけるオープンスペースのデザインと地域コンテクストの表現をテーマに、土地利用変化の想定されるエリアにおける文化的景観の観点からの計画体系化の可能性を扱った。都市の変化（Transformation）の調整においては、地域特性の持続（保全）が生態系の持続可能性や社会的包摂性の前提として重要であり、地域の価値が変化の評価に関わることを検討した。また、変化を調整する計画における空間スケールの重層性（region-local の関係性）と事例研究における時間軸のあるダイナミック・タイポロジーの概念が提案された。2017 年は日本建築学会農村計画委員会・農山漁村文化景観小委員会と連携し、「空間創造が風景をまもる時―文化的景観の進化的保全と建築・デザイン」をテーマにした研究集会を実施した。研究集会では、都市設計、民俗文化、地域主体、芸術、建築などの分野から、文化景観の保全に関する実践を学び、地域評価を文化的景観の進化的保全に統合できるよう議論を行った。

＊変化の開放性と社会的評価

ルール地域における共同研究は、2018 年のツォルフェラインでの“Transforming City Region”第 3 回国際会議につながる。「都市的統合–閉じられた都市からつながる都市へ（Urban Integration- From Walled City to Integrated City)」をテーマに、学生ワークショップと国際会議を行った。学生ワークショップでは、エッセンにある世界遺産であるツォルフェラインを対象に、OMA が描いた保存整備計画を「閉じられた都市・ツォルフェライン」と批判的にとらえ、ツォルフェライン地区内の新しい魅力や変化を外の市街地とどのようにリンクできるかを問うものであった。問題意識は、産業遺産が特別な地区として閉鎖系の中で保存整備され魅力を高めるだけで意味があるのかということである。学生の提案は多様で、水系、食、情報系など日常とつながる視点からツォルフェラインと周辺地域をつなぐ保存活用の提案があった。

＊産業遺産のある文化的景観の進化的変化の指標

ルール地域の産業遺産の活用では、当初はどの都市でも同じような集客型の施設整備が行われたが、それだけでは地域の再生につながらないことが認識された。そのなかでエムシャー川の環境再生と川を中心にした公園（エムシャーパーク）は、ルール地域の多くの都市（自治体）が価値を共有できた取り組みであった。IBA プロジェクトの始まりから 25 年を経過し、地域の変容の中に遺産を位置づけ活用することにより価値を維持するという考え方とその論点を見出してきたと考える。それは文化財の保全活用を地域政策としてみる取り組みであり、変化における価値の持続は、遺産そのものを保全することは基本として、活用において遺産の価値を支えてきた広域ネットワーク、地域の暮らしへの相互作用がなければ本質的な価値の持続とはいえない。

（国際 2）インドネシア　バリ・ジャカルタ、ジョグジャカルタとその周辺

■バリ島のスバックに関する文化的景観国際フィールドスクール

バリ島の広域に広がる棚田群の一部は 2012 年に文化的景観のカテゴリーで世界遺産となった。その真正性、“トリ－ヒタ－カラナ”の哲学は実地でどのように理解できるのかについて、Bali International Intern Field School は 2015 年に開始された。主催は全国組織である Indonesian Heritage Trust とバリ県の地域 NPO である Bali Kuna Santi で、2015 年出版に掲載のボロブドゥールの経験を共有する Facilitator が複数参画し 2023 年まで続いている。

＊スバック（灌漑水利システム）とバリ・ヒンドゥー文化の関係を知る

スバックは水田群にいきわたる灌漑用水系統のことで、バリ島が火山島で河川は非常に深い谷を形成する地形をもつため、用水は、水田のある地点よりはるか上流から分水され長距離の流路の先に権利をもつ組織の人々の農地と集落があることに気付くことが重要となった。これは外観的景観把握では理解できない。さらに農耕には多くの儀式が存在する。フィールドスクールでは、スバックに関わる仕組みと儀式の関係、さらにバリ暦の関係について、さらに集落の生活文化・自然環境・火山降灰被害等の随時テーマを結び、学びのプログラムの提案を続け、これらで蓄積した経験をいかして、2017 年９月に International National Trust Organization in Bali が開催されている。

＊高齢者の住環境という新しい価値体系

2021-22 年にかけて Bari Kuna Santi とのオンライン活用共同研究でバリ島の高齢者居住に着目した。近未来にむけた価値体系の推測である。伝統集落／都市、伝統住居／都市住居／グループホームの間で日々生活の質を比較した。伝統住居内の礼拝場所を眺める居住まいや、人々が集う機会の多様性等が質につながっており、他宗教である都市・グループホームでも文化的プログラムが重視され、多様な宗教的居住まいや人々のつながりを価値体系とする適性が把握された。

■ジャカルタ北部沿岸

＊都市カンポン強制撤去後の再建と Historic Urban Landscape

2017 年にジャカルタの Rujak center for urban studies から、新たな動的オーセンティシティを扱うフィールドスクールの企画がもたらされた。2016 年に強制撤去された都市カンポンの再建事業として、都市カンポン（都市的集落）がジャカルタ全体の文化的景観に正式に位置づく価値体系と地域の主体性を明らかにするものである。州との協力体制も毎年発展し、実践的に価値体系案を共有し、アニス州知事（当時）は戦略的都市施策 CITY4.0 にこれらの経緯を「まちづ

くり人材育成」の力がある集住と明言し、スラム発祥の都市カンポンの現代的評価エビデンスを共有できた。強制撤去がバタヴィア時代の史跡のみに評価が局所化していることの影響だったこともあり、多層の価値体系を踏まえた現代の再建を含む計画体系を完了できた。

■世界無形遺産 Indonesia Batik、さらに Jogja World Batik City への展開

＊伝統産業 Batik（ろうけつ染め）

ジョグジャカルタ周辺地域では、2009 年 Indonesia Batik の世界無形遺産の原動力になり 2014 年には World Crafts Council により Jogja World Batik City として認定された。この認定は、Batik 伝統産業の継承発展だけではなく、図柄モチーフ等の自然環境と実地の景観との関係およびその地域性や、正装を着用する際の訪問場所・その空間性、最高級の品の使い手であるスルタンに関わる歴史的景観、生産者である農村の統合的にみた文化的景観、最新デザインの作品にみあう建築空間・ランドスケープデザインまで、クラフトの可能性を最大化する取組みである。コロナ禍中の 2021 年には、Batik と文化的景観の関係を学ぶ 2021 INTERNATIONAL ONLINE SUMMER COURSE ON JOGJA WORLD BATIK CITY が、ガジャマダ大学 Adishakti 博士の主導で開催された。

バリ、ジャカルタ、さらに、ジョグジャカルタ周辺地域を通じて、フィールドスクール方式を持ちつつ、暮らしの特徴を中心とした無形遺産を価値体系の重点におき、そこに物理的環境との連動をみることが共通している。無形遺産はもとよりオーセンティシティが動的に捉えられることは多く、そこから文化的景観の理解、進化的保全の可能性をみた。

（国内 1）兵庫県竹野浜

■地形と気候条件に構えて住まう集落景観の保全

＊地形と気候の特性と地域の暮らし

兵庫県豊岡市竹野町竹野浜集落では，日本海に面した竹野川河口の両岸に居住地が形成され、河口から標高 150m の猫崎半島が北に約 2 キロに渡り細長く突出しており，特徴的な地形を有している。日本列島の海岸線の 7%は海岸砂丘であり、特に日本海側は規模の大きな砂丘が多く，竹野浜集落一帯も砂丘・砂州に分類されている。加えて、竹野浜集落を含む京都府から鳥取県へと続く日本海沿岸エリアは，鳥取砂丘をはじめとする海域と一帯となった変化に富む海岸地形が見られることから山陰海岸ジオパークに認定されており，竹野浜集落の空間形成はこの特徴的な地形の影響を大きく受けていると考えられる。また竹野浜集落は川港として栄えた歴史があり、江戸中期から明治 30 年代にかけて，猫崎半島を利用した北前船の風待ち・風除けの寄港地として多くの船が行き来し，江戸末期の最盛期には 67 戸の船主の家が記録されている。地形を生かした川港を中心にした生業により栄え、集落が形成された。現在は海水浴とカニ料理を目的としたツーリズムが竹野浜集落の主な生業の１つとなっている。

竹野浜は、砂丘地形を形成する要因となっている海からの強風という自然条件があり、その構えとしての集落空間と、川港として栄えた港町としての集落空間という 2 つの役割を有した景観を呈している。竹野浜では、「全国町並ゼミ」を発端に、港町としての町並みを保存しようとする活動が始まった。しかし、このような多自然地域の居住の持続においては，外観や形態では包括できない、地域固有の気候風土が集落の成り立ちに大きく影響しており、その自然環境と暮らしの相互作用の中で持続されてきたオーセンティシティを理解し，住み継いでいくことが必要であることが議論されてきた。

＊自然環境に対する構えの最適解を持続するフィールドスクールの試み

竹野浜では、2015 年からフィールドスクールを実施している。このフィールドスクールでは、竹野集落の空間をまち歩きを通して学び、文化的景観の主要な価値の一つである民家壁材の焼杉板を製作し、建物の外壁へ施工している。この焼杉板は、昭和 30 年代ごろから竹野浜の建物外壁材として一般的になったもので、それまでは、丸太から板を製材した時に出る辺材部分の端材がそのまま使用されていた。その後、杉板が手に入りやすくなり、板の表面を焼いて炭化層をつくることによって、日本海から吹く潮風や雪、砂から建物を守り、耐久性に優れた外壁材料として普及していった。現在でも、外装材として広く流通する建材に比べ、竹野浜の環境下では最も適した外壁材と考えられている。特に手焼きの焼板は、工場で生産された既製品に比べて炭化層が厚く耐久性に勝っているため、潮風が強い地域では現在でもニーズがある。しかし、手焼きの焼杉板は流通しておらず、焼板を焼くことができる職人の減少・高齢化が原因で、手焼きの焼板を施工する業者もいなくなってしまっている。2015 年から 2017 年にかけてのフィールドスクールは、市役所職員と明石高専が主導する形で、引退した大工の協力を得て、焼杉板を焼き、移住者が活用できる空き家の外壁や、公衆トイレの外壁への施工を試みた。2018 年度からは地元組織である観光協会と自治体構成員から成る NPO が主体となって実施する取り組みを試み始めていた。その後のコロナ禍のために、活動が縮小していたが、2022 年には NPO と移住者グループにより企画され、制作された焼杉板は民家の壁に施工されるところまで実施されるようになった。竹野浜の日本海から吹く強風への構えは、外壁材料の流通や技術の変化によって進化してきた。そして、その過程の中で普及した手焼きの焼杉板は、生産・流通の消滅という変化を受けてきた。その中でフィールドスクールを通して学んだ住民らが焼杉板を最適解として再定義し、移住者も含めた主体参加による焼杉板づくりを試みている。

フィールドスクールは、竹野浜の自然環境への構えを維持するというオーセンティシティを再共有し、持続するための新しい仕組みづくりの場として活用されている。

（国内 2）京都市伏見区・大岩街道周辺地域

■違法宅地開発地帯の文化的景観

国際１ルール地方研究の一環として、2017 年にドルトムント工科大学と研究代表者・分担者が共同で、京都市伏見区･大岩街道周辺地域におけるフィールドスクールを開催した。対象地は、1970 年前後、名神高速道路開通と都市計画区域の線引きが導入される前後に、開発許可なく工業系土地利用が集積し、1990 年代には野焼き問題も生じた地域にあたる。1990 年代の大気汚染問題等の解決をはじめ京都市伏見区も長期にわたり違法状態の解決と地域主体の都市計画に尽力してきた経緯があり、地域参加による地区計画の作成によって合法状態に導く方針を決定していた。一見、無秩序な土地利用の集合にみえるが、伏見稲荷神社のある稲荷山南麓の自然環境を有し、地理・歴史・現在みられる環境共生系工業の立地・一部に存在する居住地エリアのまちづくり活動等から、価値体系を見出し、文化的景観としてこの地域の再生ビジョンを描くスクールであった。伏見区役所・地域に関わる諸主体と協力し約 100 頁にわたる計画提案が完成した。

この後、伏見区深草支所と龍谷大学・京都大学（研究代表者）が継続して、同地域のうち特に居住地である B エリアを対象として地域での交流の輪を次第に広げつつ地区計画策定をめざした調査・研究会活動を続け、2022 年度には、大岩街道周辺地域Ｂエリアまちづくり協議会「深草鎮守池地区（B エリア)まちづくりビジョン」が策定され、計画体系は実践に適用された。

(2) 事例地域の調査－動的オーセンティシティを構成する未発見の価値体系の顕在化

■京都市伏見区中書島：庶民的な駅前飲食街の景観において、頻繁にテナントが交替する、あるいは、同一店舗が設備等の更新を行う、といった店舗経営の変化が生じるたびに、改装費用を節約しながら十分に居住まいがよくなる更新をするために、建築物の部分のみの変更が追加されていくという、変化におけるオーセンティシティを見出した。

■四万十川流域：2009 年の流域での重要文化的景観の選定から 10 年以上が経過する過程で、山や川への影響が懸念される自然再生エネルギー等の開発、公共の道路や河川整備との調整、高齢化と世代交代による集落の持続の難しさなどが顕在化し、流域全体で持続可能な地域づくりを目指して文化的景観の価値を見直す取り組みを始めた。その成果が、2022 年度の５市町協働による流域の価値の検討に基づく各市町の保存活用計画の改訂で営みの変化を誘発しつつ持続する山と川との折り合い方が時代時代の表現を生み、歴史的に続く広域の往来が地域の場所性を伝えていることがわかった。

■養父市大屋町明延地区：但馬地方には平安時代頃から鉱脈が確認され、山間の谷地に採掘を生業とする鉱山集落が点在した。これらの鉱山集落のいくつかは、生野町や明延のように企業による採掘により人口が集積し鉱山町の歴史を有する。しかし、閉山に伴い急激な人口減少と採掘の停止による生業の消失により、鉱山町としての風景は大きな変化を受けることになった。養父市大屋町明延地区は、昭和 62 年の閉山後に急激に人口が減少し、一方で、鉱山遺構は 2017 年に日本遺産として認定された「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の構成文化財となった。鉱山町としての文化的景観と閉山後の持続課題と産業遺産の活用計画に取り組み谷地に住まい、社宅を住み継ぐ仕組みが鉱山町としての社宅の風景を維持してきたことが明らかとなった。

■粗放的雑草地の風景（静岡県御前崎）：草刈り管理を粗放化することによって生じる草地の風景を進化的保全の状態と見なされ得る程度はどのように判断されるか分析した。一定の草高までは許容する、砂利敷きで草を抑制する等が可能性を認められる粗放化として抽出された。

■Kyoto Historic Urban Landscape（西陣）：京都市域を Historic Urban Landscape として評価するなら、小学校区コミュニティの主体性を動的オーセンティシティと見なし得と示した。

■バンコクのショッピングモール：世界中で画一的なスタイルを共有する大型ショッピングモールのうち、バンコク都心部立地には多様性が顕著にみられることが判明し、土地所有者との開発企画交渉の特徴にある可能性に、動的オーセンティシティの一部になり得る可能性をみた。

■ニューヨーク・ブルックリン：ジェントリフィケーションの進む渦中での景観の動的オーセンティシティとして、工場建築の空間スケール・個別性の高い個店のデザイン・ブルックリン地区内を移動しながら強化される店舗経営による個店のまちとしての特色、が見いだされた。

■南京歴史的住宅地区：複数世帯が入居し内部回廊が街路ネットワークに組み込まれるが、建築は大幅にオリジナルが残され、変化を動的オーセンティシティとして再評価可能であることが判明した。

(3)計画体系化に関する考察

以上、事例地を通じた共同研究により、動的オーセンティシティ・多層の価値体系・文化的景観の計画体系、フィールドスクール方式の有用性を実践的に扱い、完成事例を多く獲得できた。これを踏まえて事例地の協力者を含め本研究がもたらした計画体系の位置付けを図２緑色部分にまとめた。既往の規準に沿わない地区・地域の真正性と計画体系の描出を「公認」する、いわば草の根型の都市・地域計画は一般的な Planning の構造に不足の部分である。本研究はこれを明確に位置付けたことが国際的に意義ある進捗であった。同時にこれにより、水色部分の全体調整の Planning の必要が判明した。

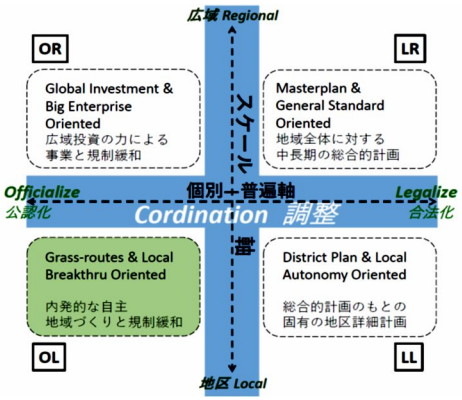


図２　本研究の位置付け公認化と広域調整による Planning

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計32件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　16件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>浦野萌子・工藤和美 | ４．巻<br>2019年度 |
| ２．論文標題<br>養父市大屋町明延地区における社宅の居住の仕組みと住ま い方 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集－計画系（農村計画） | ６．最初と最後の頁<br>30-31 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>小浦久子 | ４．巻<br>2019年度 |
| ２．論文標題<br>地域性に呼応する建築ルール | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>日本建築学会大会建築法制部門・研究協議会資料集「近代建築法制100年と今後 の建築法制の課題と展望―建築ストック社会に応えるあり方を探る」 | ６．最初と最後の頁<br>35-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>小浦久子 | ４．巻<br>Vol. 134No.1725 |
| ２．論文標題<br>地域らしさが生きるプランニングの可能性 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>建築雑誌 | ６．最初と最後の頁<br>31-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>小浦久子 | ４．巻<br>2019 |
| ２．論文標題<br>変化しつつ持続する城崎らしさ | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>造景 | ６．最初と最後の頁<br>70-77 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小坂知世・山地崇博・大橋茉利奈・太田裕通・神吉紀世子 | 4．巻<br>2019年度 |
| 2．論文標題<br>未公認都市カンポンの居住者による自律再建から見る超密集市街地の特性　その1　カンポン・アクアリウムの強制撤去と自律再建への経過 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集－計画系（都市計画） | 6．最初と最後の頁<br>393-394 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>山地崇博・小坂知世・大橋茉利奈・太田裕通・神吉紀世子 | 4．巻<br>2019年度 |
| 2．論文標題<br>未公認都市カンポンの居住者による自律再建から見る超密集市街地の特性　その2 カンポンアクアリウムにおけるフィールドスクールの成果とプロセス | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集－計画系（都市計画） | 6．最初と最後の頁<br>395-396 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>清山陽平・神吉紀世子 | 4．巻<br>2019年度 |
| 2．論文標題<br>跡形に着目した町並みの記述を用いた修景の有無と来街者評価に関する研究　京都市伏見区竜馬通り商店街と中書島駅前商店街を対象として | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集－計画系（都市計画） | 6．最初と最後の頁<br>519-520 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Elisa Sutanudjaja, Amalia Nur Indah Sari, Kiyoko Kanki, Hiroto Ota | 4．巻<br>15th |
| 2．論文標題<br>Recovery of Evicted Kampung after Public Infrastructure Development in North Jakarta - Community Action Planning as Innovative People-based Solution -1 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Proceedings of THE 15TH CONFERENCE OF INTERNATIONAL DEVELOPMENT AND URBAN PLANNING | 6．最初と最後の頁<br>134-141 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Kiyoko Kanki, Hiroto Ota, Elisa Sutanudjaja, Amalia Nur Indah Sari | 4．巻<br>15th |
| 2．論文標題<br>Inter-regional exchange idea and experience exchange as a resource for collective intelligence in rebuilding evicted settlements - Community Action Planning as Innovative People-based Solution -2 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Proceedings of THE 15TH CONFERENCE OF INTERNATIONAL DEVELOPMENT AND URBAN PLANNING | 6．最初と最後の頁<br>142-147 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吹抜祥平・神吉紀世子 | 4．巻<br>2018年度 |
| 2．論文標題<br>違法開発集積地域における改善事業可能性から見た主体設計に関する研究 －京都市「大岩街道周辺地域」を事例として－ | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>2018年日本建築学会近畿支部研究報告集－計画系 | 6．最初と最後の頁<br>361-364 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子 | 4．巻<br>Vol.47-2 |
| 2．論文標題<br>地域環境の持続可能性と再生可能エネルギー | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>環境情報科学 | 6．最初と最後の頁<br>41-46 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子・長濱伸貴・畑 友洋 | 4．巻<br>2018 |
| 2．論文標題<br>都市空間の持続可能性にむけての風致地区制度 -京都での制度運用の検証から | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2018」 | 6．最初と最後の頁<br>1-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>浦野萌子・工藤和美・中村美貴・角田優子 | ４．巻<br>2018－農村計画 |
| ２．論文標題<br>竹野浜地区における舟小屋の分布と空間 | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>2018年日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 | ６．最初と最後の頁<br>1-2 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>植村偲・工藤和美・角田優子・平石年弘 | ４．巻<br>2018－農村計画 |
| ２．論文標題<br>竹野浜における風と暮らしのかかわりに関する研究ー集落に吹き込む卓越風に着目してー | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>2018年日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 | ６．最初と最後の頁<br>3-4 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>金丸厳太・吹抜祥平・神吉紀世子 | ４．巻<br>2018－都市計画 |
| ２．論文標題<br>京都市「大岩街道周辺地域」にみる違法開発集積地域の改善事業における主体設計に関する研究 その 1<br>ー主体形成の読解からみる将来像提案の位置づけー | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>2018年日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 | ６．最初と最後の頁<br>1101-1102 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吹抜祥平・金丸厳太・神吉紀世子 | ４．巻<br>2018－都市計画 |
| ２．論文標題<br>京都市「大岩街道周辺地域」にみる違法開発集積地域の改善事業における主体設計に関する研究 その 2<br>ー主体の把握と主体設計による将来像提案ー | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>2018年日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 | ６．最初と最後の頁<br>1103-1104 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>神吉紀世子 | 4．巻<br>2017年度 |
| 2．論文標題<br>文化的景観（Cultural Landscape）の保全に「表現」の必要なとき～熊野でであう風景の体験とその真実性をどのように扱うか～ | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>2017年度日本建築学会大会（中国）農村計画部門パネルディスカッション資料集 | 6．最初と最後の頁<br>31-34 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>TU Dortmund + Kyoto University + Kobe Design University | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>HOUSING, CRAFTS AND INDUSTRY IN CULTURAL LANDSCAPES -Resilient Land Use Development for Quasi-Urbanized Areas- | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>LODE _PORT SUMMER ACADEMY 2017 | 6．最初と最後の頁<br>1-109 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吹抜祥平,清山陽平,久保田匠慶,金丸厳太,山本雄志,神吉紀世子 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>小さなまちの拠点　和知駅待合空間改修プロジェクト | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集（建築デザイン） | 6．最初と最後の頁<br>416-417 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>清山陽平,神吉紀世子 | 4．巻<br>57 |
| 2．論文標題<br>京都市伏見区中書島における跡形集積の風景に対する来街者評価に関する研究 現代風景への非修景的アプローチ | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会近畿支部支部研究報告集 | 6．最初と最後の頁<br>353-356 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>清山陽平,神吉紀世子 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>京都市伏見区中書島地域における跡形集積の風景に対する来街者評価に関する研究　現代風景への非修景的アプローチ | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画） | 6．最初と最後の頁<br>683-684 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子,川村慎也 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>風景への気づきと語り方　-四万十川流域（四万十市）の取り組みから考える | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>2017年度日本建築学会大会（中国）農村計画部門パネルディスカッション資料集 | 6．最初と最後の頁<br>35-36 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>植村偲,戸田拳志朗,工藤和美 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>明延鉱山集落の記憶を伝える | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>2017年度日本建築学会大会（中国）農村計画部門パネルディスカッション資料集 | 6．最初と最後の頁<br>37-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>角田優子,工藤和美 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>モトコーにおける組織・空間の特性　神戸元町高架通商店街の再生に向けた基礎的研究 | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画） | 6．最初と最後の頁<br>413-414 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>植村偲,山崎義人,工藤和美 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>北条旧市街地の空間形成 | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集（農村計画） | 6．最初と最後の頁<br>31-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>縄田諒,工藤和美,平石年弘 | 4．巻<br>2017 |
| 2．論文標題<br>竹野浜の路地の空間特性について- 集落に吹き込む地形がもたらす卓越風に着目して - | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集（農村計画） | 6．最初と最後の頁<br>37-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子,秋月裕子 | 4．巻<br>Vol.52-3 |
| 2．論文標題<br>景観の公益に対する再生可能エネルギーの公益との調整にみる計画課題　- 四万十川の文化的景観保全における大規模太陽光発電施設計画への対応を事例として- | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>日本都市計画学会都市計画論文集 | 6．最初と最後の頁<br>1171-1176 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.11361/journalcpij.52.1171 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子 | 4．巻<br>Vol.98-6 |
| 2．論文標題<br>文化的景観というみかた　-営みが生み出す都市をつくる建築- | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>建築と社会 | 6．最初と最後の頁<br>46-49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Kudoh Kazumi, Adriana Piccinini Higashino | 4．巻<br>11 |
| 2．論文標題<br>International Exchange x Architectural Design Education: Akashi College and UFRGS Tearoom Project Workshop Case Study | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>ISAIA2016 11th International Symposium on Architectural Interchange in Asia | 6．最初と最後の頁<br>316-321 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Hisako Koura | 4．巻<br>2016_5（09/2016） |
| 2．論文標題<br>Spatial Transformations and Sustainability of the Block Structure of Historic Urban Centers in Japan | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Comparative Cultural Studies in Architecture | 6．最初と最後の頁<br>4-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小浦久子 | 4．巻<br>Vol.107 |
| 2．論文標題<br>景観法の活用と課題-持続可能な地域環境の創出のために | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>都市問題 | 6．最初と最後の頁<br>61-70 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>縄田諒・工藤和美・小浦久子 | 4．巻<br>農村計画 |
| 2．論文標題<br>竹野浜の路地の空間特性について　兵庫県豊岡市竹野町を対象に | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>日本建築学会2016年度大会（九州）学術講演梗概集 | 6．最初と最後の頁<br>228-229 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計26件（うち招待講演　20件／うち国際学会　14件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>小浦久子 |
| 2．発表標題<br>歴史的都市性の価値を保全する変化 |
| 3．学会等名<br>大阪府建建築士会　大阪ヘリテージ・マネージャー講座（招待講演） |
| 4．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Elisa Sutanudjaja, Amalia Nur Indah Sari, Kiyoko Kanki, Hiroto Ota |
| 2．発表標題<br>Inter-regional exchange idea and experience exchange as a resource for collective intelligence in rebuilding evicted settlements - Community Action Planning as Innovative People-based Solution -2 |
| 3．学会等名<br>THE 15TH CONFERENCE OF INTERNATIONAL DEVELOPMENT AND URBAN PLANNING（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Kiyoko Kanki, Hiroto Ota, Elisa Sutanudjaja, Amalia Nur Indah Sari |
| 2．発表標題<br>Inter-regional exchange idea and experience exchange as a resource for collective intelligence in rebuilding evicted settlements - Community Action Planning as Innovative People-based Solution -2 |
| 3．学会等名<br>THE 15TH CONFERENCE OF INTERNATIONAL DEVELOPMENT AND URBAN PLANNING（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| 2．発表標題<br>Advanced Urban Planning of Officializing LOCAL CONTEXTS through Inhabitants Council for Community Development “Matidukuri Kyogikai |
| 3．学会等名<br>2nd International Field School - Reviving Urban Commons, International Conference（招待講演）（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| ２．発表標題<br>Opening:Cultural Landscapes; Nature and Humanity via Dynamic (On-going) Layered Systems |
| ３．学会等名<br>International Conference and Field School at Kampung（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>神吉紀世子 |
| ２．発表標題<br>「まちづくり（matidukuri）」（デザインスクールおよび大学研究室間での 国際的かつ汎用的な活動タイプ INTERNATIONAL FIELD SCHOOL） |
| ３．学会等名<br>デザインイノベーションコンソーシアム　デザインレクチャー 2019 Season I」～予測不可能な世界を生き抜くための企画・デザインの発想を学ぶ～（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Laretna T. Adishakti, Kiyoko KANKI, Ulrike Herbig, Titin Fatimah |
| ２．発表標題<br>Talk Show 3 "Pusaka Bersama dalam Saujana Pusaka" |
| ３．学会等名<br>BPPI 2020 Hari Pusaka Dunia 2020（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| ２．発表標題<br>Cultural Landscape and Its Dynamic Conservation Along Asian Monsoon Context |
| ３．学会等名<br>Magister Arsitektur UNITAR Seri Webinar - 25 Juli 2020 Cultural Landscape (Saujana) Conservation-（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| ２．発表標題<br>3rd Bali Internship Field School for SUBAK 2017 September |
| ３．学会等名<br>6th BIFSS 2020 “Subak and Pandemic: a Legacy in Building Resilience”（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>小浦久子 |
| ２．発表標題<br>大阪の歴史的都心・船場の変容と持続 ―船場は文化的景観か |
| ３．学会等名<br>アジア景観学会（神戸芸術工科大学） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>小浦久子 |
| ２．発表標題<br>文化的景観としての「聴竹居」 |
| ３．学会等名<br>聴竹居倶楽部10周年記念講演会（大山崎ふるさとセンター・ホール）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>神吉紀世子 |
| ２．発表標題<br>「まちづくり（matidukuri）」（国際研究者協力による「まちづくり」への直接貢献・研究の進展） |
| ３．学会等名<br>デザインイノベーションコンソーシアム　デザインレクチャー 2018 Season I」 ～予測不可能な世界を生き抜くための企画・デザインの発想を学ぶ～（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko　KANKI |
| ２．発表標題<br>Finding Vernacular Landscape in Temporality |
| ３．学会等名<br>Public Lecture ON TEMPORALITY, 1st International Field School on the Kampung Akuarium (RUJAK +Kyoto University)（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Hisako Koura |
| ２．発表標題<br>Critical Transformation at the Urban Fringe - Conflict between National Energy Policy and Local Landscape value |
| ３．学会等名<br>Transforming City Regions Ⅲ,　International Symposium：URBAN INTEGRATION―From Walled City to Integrated City（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko Kanki |
| ２．発表標題<br>Resilient Land Use Development for Illegally Developed Areas: The Kyoto Fusimi Greenbelt |
| ３．学会等名<br>Transforming City Regions Ⅲ, International Symposium：URBAN INTEGRATION―From Walled City to Integrated City（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>浦野萌子・工藤和美 |
| ２．発表標題<br>Spatial characteristics of houses for company employees of the Akenobe mine -Intended for Akenobe,Ooya,Yabu City, Hyogo- |
| ３．学会等名<br>国立高専機構　第3ブロック専攻科研究フォーラム |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| ２．発表標題<br>2011 Kii Peninsula Flood disaster with the viewpoint of Rural Municipal Merger |
| ３．学会等名<br>2017 JAPAN-KOREA RURAL PLANNING SEMINAR -Resilience and Sustainability of Rural Areas（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>神吉紀世子 |
| ２．発表標題<br>重伝建地区制度の役割とまちづくり |
| ３．学会等名<br>宮島・土曜講座（広島工業大学）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>神吉紀世子 |
| ２．発表標題<br>地域づくりから見る文化的景観 |
| ３．学会等名<br>近畿地方都市美協議会　都市景観研修会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko KANKI |
| ２．発表標題<br>Drastic Change of Accessibility & Mass Tourism Spread into the Isolated Small Heritage Island of Taketomi - Traditional community’s struggle - |
| ３．学会等名<br>17th International Conference of National Trusts in Bali（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>小浦久子 |
| ２．発表標題<br>都市における自然基盤と営みの風景 |
| ３．学会等名<br>日本造園学会大会フォーラム |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>小浦久子 |
| ２．発表標題<br>まちの記憶から暮らしの風景の再生とは何かを考える |
| ３．学会等名<br>鳥取県景観セミナー（招待講演） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>小浦久子 |
| ２．発表標題<br>景観の保全と地域づくり |
| ３．学会等名<br>京都府立大学京都地域未来創造センターKIRPセミナー（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko Kanki |
| ２．発表標題<br>Community development approach for Conservation of Cultural Landscape Heritage |
| ３．学会等名<br>the 2nd Symposium on Architectural Heritage Conservation Technology and the establishment ceremony of the Research Center of Architectural Heritage and Environment（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko Kanki |
| ２．発表標題<br>Cultural Landscape and Tourism / Designated Heritages and local communities /  Tourism with story telling of value systems |
| ３．学会等名<br>Bali Internship Field School for Subak; BIFSS 2016（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kiyoko Kanki, Laretna T.Adishakti, Titin Fatimah |
| ２．発表標題<br>International Borobudur Field Schoolによる文化的景観の評価と保全に関する一連の活動（農村計画学会賞（実践）記念講演） |
| ３．学会等名<br>農村計画学会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2016年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>日本建築学会農村計画委員会（農山漁村文化景観小委員会　主査：工藤和美） | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>日本建築学会 | ５．総ページ数<br>88 |
| ３．書名<br>空間創造が風景をまもる時 －文化的景観の進化的保全と建築・デザイン（2017年度日本建築学会大会（中国）農村計画部門パネルディスカッション資料集） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 小浦　久子<br>(KOURA Hisako)<br>(30243174) | 神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授<br>(34523) | |

６．研究組織（つづき）

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 工藤　和美<br>(KUDOH Kazumi)<br>(40311055) | 明石工業高等専門学校・建築学科・教授<br>(54501) | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計8件

| | |
|---|---|
| 国際研究集会<br>2nd International Field School on Kampung Akuaium in Jakarta- Reviving Urban Commons, International Conference | 開催年<br>2019年～2019年 |
| 国際研究集会<br>3nd International Field School in Kampung Akuarium on WEB - Layers of Memories : Our Common History (International Conference and Field School) | 開催年<br>2020年～2020年 |
| 国際研究集会<br>TDS+KDS International Workshop in Bangkok 2019 - Urban Regeneration in Bangkok Creative District | 開催年<br>2019年～2019年 |
| 国際研究集会<br>IMOGIRI (AIJ Rural Planning Committee Seminar, by Laretna T. Adishakti, "INTEGRATION OF REVIVING FOLK BATIK POST EARTHQUAKE AND SAUJANA (CULTURAL LANDSCAPE) CONSERVATION OF IMOGIRI HERITAGE VILLAGE") | 開催年<br>2019年～2019年 |
| 国際研究集会<br>Transforming City Regions Ⅲ, International Symposium：URBAN INTEGRATION―From Walled City to Integrated City | 開催年<br>2018年～2018年 |
| 国際研究集会<br>1st International Field School on the Kampung Akuarium | 開催年<br>2018年～2018年 |
| 国際研究集会<br>日本建築学会大会（中国）農村計画部門パネルディスカッション「空間創造が風景をまもる時 －文化的景観の進化的保全と建築・デザイン」 | 開催年<br>2017年～2017年 |
| 国際研究集会<br>HOUSING, CRAFTS AND INDUSTRY IN CULTURAL LANDSCAPES - Resilient Land Use Development for Quasi-Urbanized Areas - | 開催年<br>2017年～2017年 |

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---|---|---|---|---|
| インドネシア | BPPI (Indonesian Heritage Trust) | | | |
| タイ | タマサート大学 | | | |
| 中国 | 東南大学 | | | |
| ドイツ | アーヘン工科大学 | | | |
| ドイツ | ドルトムント工科大学 | | | |
| インドネシア | RUJAK Center for Urban Studies | | | |

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---|---|---|---|---|
| インドネシア | Gadjah Mada University | | | |
| インドネシア | Tarumanagara University | | | |
| インドネシア | Bali Kuna Santi | | | |